



オーテピア高知図書館
高知県立図書館／高知市図書館本館
Kochi Prefectural Library and Kochi Municipal Library

目標（令和3年度）

- オーテピア来館者数 100万人
- 年間個人貸出点数 110万点
- レファレンス件数 3万件

実績（令和2年度） [前年度実績]

- オーテピア来館者数 707,197人 [1,028,441人]
- 個人貸出点数 1,018,409点 [1,064,469点]
- レファレンス件数 26,530件 [37,914件]

参考

- 電子図書館登録者数の伸び 453人(R2.3.31) ↑ 1,751人(R3.3.31)
- 開館日1日当たりの個人貸出点数 R2:3,785点 [R元:3,748点]

これまでの取組状況（令和3年3月末実績）

取組の成果・課題等

今後の改善・取組

1 地域を支える情報拠点機能の充実

(1) 資料・情報の提供

- ①資料
【R2資料購入費】184,073千円（県102,003千円、市82,070千円）
【資料受入点数】図書45,559冊、新聞154紙、雑誌2,321タイトル ※寄贈含む
【電子書籍】利用可能タイトル数:5,277 閲覧回数:14,495
有効登録者数(R3.3.31時点):1,751人
- ②貸出し・予約・リクエスト
・リクエストを受けた資料は積極的に収集し、入手困難なものは相互貸借を利用した。

(2) 高知県関係資料の収集・保存・提供

- ①収集
（県）補正予算（新型コロナ対策交付金）を活用し、『**南路志**』（全10巻）と『**憲章簿**』（全7巻）の**デジタル画像とテキスト・データを作成し、ウェブ・サイトにおいて公開した。**
（市）職員による資料撮影を計画的に進めている。

2 暮らしや仕事の中でのさまざまな課題解決への支援

(1) レファレンス・サービス

- ②利用ガイド
・館全体では、ブックリスト98種類、パスファインダー11種類をウェブ・サイトに公開中。
【レファレンス受付件数】26,530件（うちビジネス支援:1,799件、健康安心防災:1,453件）
- ③連携
・レフェラルサービス実績 20件（高知資料3+健康安心防災2+ビジネス15）

(2) 課題解決支援サービス

① ビジネス・農業・産業支援サービス

- ①資料
・労働関係の古い本を書庫入れし、書架を整備。**労働関係資料を紹介するMAPを設置。**
・労働関係の書架近くに、**アフターコロナやメンタルヘルス関係の常設コーナーを設置。**
- ④連携
・若者進路相談会（共催）:8回
・R2年度開催予定だった土佐山アカデミーとの連携によるワークショップは、R3.7月開催予定。

② 健康・安心・防災情報サービス

- ①資料
・社会情勢や、高知県の課題に即した資料を収集。高知新聞から防災・新型コロナウイルス関連記事を掲示・ファインディング。専門機関からチラシやパンフレットを収集・設置し、利用者が今必要としている情報を提供。

- ⑤連携
・専門機関と連携し、パネル展示やセミナー、相談会等の共催事業を実施。**2/21『大人の発達障害』を理解するセミナー』【連携:高知県立療育福祉センター発達障害者支援センター】ほか**
・専門機関等が実施している関連イベント等の情報やパンフレットを集約・提供。

③ 情報リテラシー向上支援サービス

- ①講座等・図書館活用に係る講座の開催。【主催（図書館活用ミニ講座等）】7回 【外部】9回

④ 行政支援サービス

- ③レファレンス
・メルマガや図書館活用講座などの機会を捉えて、レファレンス・サービスを紹介。
・**県移住促進課の協力を得て、オーテピア高知図書館の活用事例まんがを制作。**

(1) 資料・情報の提供

- ①・雑誌については、課題解決支援のための専門雑誌も多く、個々に契約を行っているものが多数ある。そのため事務が非常に煩瑣になっている。また、一日に整理（データ登録、装備等）しなければならない雑誌の量も多く、負担が非常に大きい。
・新鮮な本が開架に並んでおり、一般的な利用者の満足度は高い。その一方で、旧来の図書館からの利用者にとっては、従来開架にあったものが、スペースの都合で書庫に入っている場合があり、ご意見をいただくこともある。

(2) 高知県関係資料の収集・保存・提供

- ①（県）『南路志』『憲章簿』は高知関係の調べものをする際に頻繁に使用する基本的な資料で、今回テキスト・データを埋め込んだことで全文検索も可能になり、図書館職員・利用者双方にとって非常に便利になった。
（市）近森文庫、中城文庫など13,260点の資料撮影を行った（そのうち、平尾文庫10,453点は、登録を行い、一部の制限付きの資料は非公開とした）。

(1) レファレンス・サービス

- ・グループウェア上で一つのレファレンスに対して複数の司書がそれぞれ調査した結果を随時投稿する方法で進めている。これらをほかの司書が見ることにより、レファレンスの方法を学習する機会にもなっている。
・レフェラル・サービスについて、県内の公的な専門機関等は一定把握ができてはいるものの、県民・市民が相談できる窓口等を十分に把握・整理できているとはいえない。

(2) 課題解決支援サービス

① ビジネス・農業・産業支援サービス

- ①・労働関係の本の利用が増えた。書架の魅力の向上につながった。
・労働関係資料を紹介するMAPの情報量が不十分。
④・若者進路相談会では34名が相談。うち1名はサポートステーションに登録し、就労につながった。
・感染症の影響により、セミナー・イベントの開催日の再検討が生じている。

② 健康・安心・防災情報サービス

- ①専門機関より「生活保護」「介護保険」等のチラシやパンフレットを収集・設置し、利用者のニーズに応えた。業界紙・専門誌などの周知が不十分。
⑤新型コロナウイルス対策、県民の関心、社会情勢等を踏まえる必要がある。

③ 情報リテラシー向上支援サービス

- ①ビジネス関係では、データベース紹介、演習を実施回数を2回（平日夜間、土曜午前）に増やしたことにより、参加者への細かい対応ができた。また内容を録画し後日オンラインで視聴できるようにした。コロナ下での実施機会の確保が課題。

④ 行政支援サービス

- ③・一定の頻度で、行政職員からのレファレンス依頼がある。
・連携してまんがを制作することで、効果的にレファレンス・サービスをPRする広報ツールとなった。

(1) 資料・情報の提供

- ①・雑誌のデータ登録、装備等に時間を要しているため、利用頻度が少ないものは装備を容易なものとする。
・要望があったものや必要と判断されるものは、書庫から開架に出すようにしている。お申し出により書庫の中から職員が本をお出しすることや、書庫の公開も行っていることを引き続き周知していく。

(2) 高知県関係資料の収集・保存・提供

- ①（県）全文検索については、より使いやすい形で提供できるように今後も見直していく。
（市）紙ベースしかなく、テキスト化されていない既存の参考資料（土佐群書集成『燈袋』などの翻刻本）をデジタル化し、データベースに載せきれない情報を検索・利用できるようなしくみ作りを検討。

(1) レファレンス・サービス

- ・司書が学習していくことにより、回答の精度やスピードを向上させていく。レファレンス協同データベースへの事例登録・公開も今後進めていく。
・関係機関が作成した相談窓口一覧などを活用し、窓口での問い合わせの際に情報提供できるようにしていく。

(2) 課題解決支援サービス

① ビジネス・農業・産業支援サービス

- ①労働関係資料を紹介するMAPを改訂する。
④引き続き、感染防止策を講じながら、可能な範囲で開催していく。特に相談会は、換気のためドアを開放して行うが、プライバシー確保の工夫をする。販路拡大等に繋がる取組を行う。

② 健康・安心・防災情報サービス

- ①看板や誘導サインを作成するなど周知に努める。
⑤「発達障害」「ひきこもり」等の相談会の実施を検討。関係機関が作成した広報物の掲示・配布を強化。

③ 情報リテラシー向上支援サービス

- ①対象者数が多い場合は小人数で複数回開催、またオンライン研修や研修内容を録画して配信するなど、図書館活用講座の頻度を増やす。

④ 行政支援サービス

- ②・制作した図書館活用事例まんがを活用してPRする。
・R3年度のまんが制作に向けて、他課との連携を検討する。

3 利用者に応じた図書館サービスの充実

- (1) 児童サービス**
 ①資料【受入冊数】3,932冊（雑誌・選定支援コーナー分は除く）
 ・教科書の改訂に合わせ、団体貸出セットの内容を見直し、調べ学習に役立つ図書の提供開始。
 ②展示 子育て応援コーナー本棚のリニューアル。おはなし会の場 に本を展示し、利用を促した。
 ⑦児童図書の選定支援
 ・購入して3年目の選定支援図書を児童福祉施設に寄贈。研修会等で選定支援コーナーをPR。
 ⑨情報リテラシー ・図書館紹介動画を作成しYouTubeで公開。
 ・「こどもとよかんしんぶん」に本の探し方についての記事を掲載。
- (2) ティーンズ・サービス**
 ①資料
 ・書架の資料の見直しを定期的に継続して実施している。
 ⑦PR
 ・SNSを介して気軽に図書館や同世代と関わることがきる「オーテピアティーンズ部」の活動を開始。
 18名入部。学校訪問の際に、ティーンズ部についても説明し、広報を行った。
- (3) 多文化サービス**
 ①資料
 ・日本語学習者向けの資料を収集。外国語の電子書籍の積極的な日本語学習資料とともに関連するブックリストを作成し、提供した。
 ・リクエストのほか、問い合わせのあった資料を収集。国際交流員や連携団体の意見も参考にした。
 ⑤連携
 ・日本語学習者向け館内ツアーの実施。関連機関と連携展示、探し方研修や情報交換を行った。

- (4) 図書館利用に障害のある人へのサービス**
 ①資料
 ・布絵本、ハリアフリーDVDを積極的に収集。大活字本、LLブックは引き続き全点購入。3月に県立春野高校生作の布絵本17点が寄贈された。
 ②各サービス
 【宅配貸出】実利用者9人 利用件数32件 利用冊数116冊
 【対面音訳】実施回数延べ672回（うち登録ボランティア利用延べ638回） スカイク導入。
 ④PR ・SNS・庁内掲示板等で資料やサービスの紹介記事を投稿。**やさしい利用案内を作成。**

4 連携・支援及び図書館の活用

- (1) 市町村立図書館等への支援** 県立
 ①人的支援【巡回訪問】31市町村延べ61回【依頼訪問】1市町村延べ3回【研修】12回321名参加
 ・研修動画「図書資料の選定・除籍」の作成・公開。ブロック別研修会の1回をオンライン開催。
 ・感染症やSDGsなどの貸出セットや図書館が利用できる助成制度等をブログで紹介。
 ②物的支援【購入冊数（移動図書館・協力貸出用）】7,208冊 【物流取扱点数】118,480冊
 ・寄付金を活用し移動図書館バスを更新。
- (2) 高知市全域サービスの拠点** 市民
 ④・分館・分室について、登録時に窓口での説明、ウェブサイトでの定期的な情報の掲示や広報紙の配布を行っている。
 ・寄附金を活用し移動図書館バスを1台を更新した。

- (3) 県立学校図書館等との連携** 県立
 ①協力【貸出冊数】19校1,491冊【訪問】22校25回【レファレンス貸出】45件【研修参加】24名
 ・**実習助手が配置されている全ての県立学校に訪問。**まとも貸し等のサービスについて説明。
 ・**学校訪問後は貸出依頼があり、継続的に資料を提供している。**
 ・市町村立図書館等職員対象の研修について、県立学校等にも通知（4回。うち1回オンライン開催）。

- (4) 中心市街地活性化への寄与、周辺施設との連携**
 ①中心市街地活性化への寄与
 ・12/7『オーテピア高知図書館サービス計画』意見交換会等で関係機関・団体と協議。
 ・商店街にある百貨店との連携について協議。
 ②周辺施設（教育・産業支援施設）との連携
 ・11/15お城下ネット「お城下文化の日」を開催。
 講演会30名、リサイクル本配布159名、お城下文化手帳持参者へのプレゼント140名

- (1) 児童サービス**
 ①学校での調べ学習の要望に応えやすくなったが、一部未完成。
 ②子育て応援コーナーから各分野の本棚へのスムーズな案内が必要。
 ⑦巡回展示後の図書の活用方法が定まっていない。
 ⑧・動画やリニューアルした見学スライド、感染症対策をした見学が好評。
 ・こども向けのOPACの使い方をマニュアルを作成し、提供する必要がある。

- (2) ティーンズ・サービス**
 ①過去2年以内の利用実績が9割を超えており、書架の見直し、面展示を増やしたことによる効果が出ている。
 ⑦・本の紹介文15件、オリジナルイラスト5件の投稿があった。
 ・8名が卒業となるため、新規部員の獲得のための効果的なPRが必要。

- (3) 多文化サービス**
 ①主要な外国語雑誌は収集し、速報性の高い情報提供を行えたが、県内在留外国人の母語資料について、十分対応できていない言語がある。また、認知度の低い資料を周知する必要がある。
 ⑤やさしい日本語の館内ツアーにより、日本語学習者の図書館利用につながった。既存の連携団体との共催事業が多く、新規に連携の検討が課題。

- (4) 図書館利用に障害のある人へのサービス**
 ①・SNS等での資料紹介や布絵本の常設展示により、布絵本・DVDの貸出点数が増加。
 ・大活字本の貸出点数は開館前と比べ大幅に増加しているが、LLブックの認知度は低い。
 ②スカイクや感染防止対策用の新設備導入による別室での音訳サービス提供が新規利用者や利用回数の増加につながった。
 ④サービスが必要な人に情報が届く仕組みづくりが必要。

- (1) 市町村立図書館等への支援**
 ①・訪問による関係構築が、電話やメールでの相談に結びついている。
 ・オンライン研修では、遠方からの参加がある一方、集中して学ぶことが難しいとの声がある。
 ・ブログ等による情報提供だと、市町村職員の目に留まらないことがある。
 ②利用が見込まれる本でも、市町村で購入しない状況が散見される。

- (2) 高知市全域サービスの拠点**
 ④情報が届いていない利用者があり、多様なツールを用いたPRの検討が必要。

- (3) 県立学校図書館等との連携**
 ①・関係づくりができた学校から、再度訪問の依頼がくるようになった。
 ・利便性向上のため、高校からもネットで予約できるようにする必要がある。
 ・県立学校の教科書を把握できておらず、ブックリストが未作成。
 ・オンライン研修では、遠方の学校からも参加があり、今後も開催手法として取り入れていく必要がある。

- (4) 中心市街地活性化への寄与、周辺施設との連携**
 ①・意見交換会での意見・アイデアについて、具体化に向けた検討を要する。
 ・まちゼミ等のイベント中止が続き、商店街関係者と直接情報交換をする機会が減っている。
 ②より多くの方に連携事業を周知するための情報発信手段の検討。

- (1) 児童サービス**
 ①すべての団体貸出セットを利用可能な状態にする。
 ②関連機関と連携し、資料や配布物の充実。子育て応援コーナーから館内各コーナーへの案内方法を検討する。
 ⑦巡回展示後の図書の活用について検討する。
 ⑨こどものリテラシー向上に資するよう、OPACの使い方をマニュアルの作成や、「こどもとよかんしんぶん」に本の探し方について引き続き掲載する。

- (2) ティーンズ・サービス**
 ①さらに積極的に活用される蔵書構成を目指し、ティーンズのニーズ把握のため学校やティーンズ部員に協力を呼び掛ける。
 ⑦・すべての部員の積極的な参加を促すため、希望する活動についてメールによる聞き取りを行う。
 ・県立学校との連携を担う支援協力担当とともに、学校訪問による直接的なPRを行う。

- (3) 多文化サービス**
 ①所蔵のない言語の雑誌や新聞を購入し、PRする。
 ⑤・館内の日本語表示をやさしい日本語にする。
 ・実施している共催事業を見直す。

- (4) 図書館利用に障害のある人へのサービス**
 ①館内展示や出前図書館、SNS等で資料紹介し、周知を図る。
 ②各種障害者手帳の交付時、県下全域の対象者にハリアフリーサービスチラシを配布し、周知を図る。
 ④やさしい利用案内を活用し、関係者集会や行事等の機会を捉え、当事者や施設職員等に対して積極的にPRする。

- (1) 市町村立図書館等への支援**
 ①・集合研修と研修動画の配信を組み合わせで実施していく。
 ・紙媒体も活用して、市町村へ情報提供する。
 ②市町村立図書館等で収集した方が適当である資料については購入を促す。

- (2) 高知市全域サービスの拠点**
 ④インターネット環境をもたない住民にも情報を届けるため、市広報誌に情報を掲載する。

- (3) 県立学校図書館等との連携**
 ①・システム改修を進める。マニュアルを整備する。
 ・教科書を購入する。授業の進行状況を把握し、ブックリストを作成・提供する。
 ・オンラインや動画を活用した研修を検討する。

- (4) 中心市街地活性化への寄与、周辺施設との連携**
 ①・百貨店との連携を含め、関係機関・団体等との協議を進める。
 ・オンライン形式も活用し情報交換の機会を増やす。
 ②お城下ネット各館主催のイベントについて、サブイベント（スタンプラリーなど）での連携を検討する。